



2005年度国際薬膳師(士)試験合格者の喜びの声

感無量

国際薬膳士 栗田 紹

私にとって試験は何十年ぶりでしょうか？

この年七十一歳を過ぎて今さら、恥をかかなくてもよいのではないかと自問自答しましたがおそらく人生において今後二度とないチャンスとして自主学習の一環として受験させて、頂ましたか、すでに脳中はパンプキンの様になってしまっているの何しろ字の読み書きが難しく一苦労しました。何回も本を読んでしまったのが大きな誤算でした。体力、能力、記憶、などが低下しているのを知ると自分がもどかしくて自然に涙が止まらない様な時も何度かありました。その度にスケジュールの時間を延長し、自分自身にこれが最後のテストなんだからと言いつけたりなだめたり、力づけたりしてきました。

いよいよ当日を迎えましたが、出された答案用紙を見て頭が真白になって何を書いたら覚えておりません。終わってから何故あんなに一生懸命やったのにと悔やんでなりませんでしたが劉先生の励ましで何とか終了しましたが、現在は自分に良くやった、良く頑張ったと褒めてやりたいです。本当にこの試験を受けて多くの友達が出来、勉強のやり方等色々を知ることが出来て大変感謝しています。

私事ですが私の体を心配した協力力づけてくれた主人にもありがとうと言いたいです。



薬膳との出会い

通信教育 国際薬膳師 永田雅子



思い起こせば12年ほど前、私は高校受験2週間程前に同じ受験生の友人達とカラオケにいき、それでもなぜか受かってしまった高校では毎日バイトにあけくれ暇さえあれば友人達とカラオケブライクラ好きな料理に食べ歩き...毎週金曜日にはかかさず料理の鉄人という番組を見ては感動を覚え見様見真似でできもしないのに冷蔵庫にある材料で失敗作を作り...遊び呆けていた私に「おまえの辞書には勉強と言う文字は無いのか!!」と父にどやされ「そんなものはありません」と答える...そんな日々を送っていました。そんなどうしようもない私を哀れんだ仲様が一つの提案をしてくださったのか(?)初めて私の辞書に『勉強』という文字を入力してくれたのが『薬膳』との出会いでした。

8年前、保育園の給食の仕事をしていた私がたまたま行った市の研修会、薬膳料理研究家の先生のお話の中の「5性」の考え方が私の心の中で衝撃となって走り出しました。「病気は治療と薬で治すもの」「体質改善は運動、薬、治療、サプリメントですもの」なんてはずかしながら、仮にも調理師でありながら一番大事な『食』のパワーには全く無関心だった私の固定観念の塊から一気に抜け出した様な衝撃的な出会い。「食材に体を冷やすものと温めるものがあつたなんて...!!」19歳のその頃の思いを捨てきれず、薬膳と名の付く本を買って色々調べていく内に自分の仕事になにかしらの疑問を感じるようになりました。私は現代栄養学も大好きですがはたして...「数字だけで食べ物か計れるの?」「この栄養学は完璧なの?」など...全く無知な若造の私なりに感じた素朴な疑問。

例えば食材としてよく使う人参。豊富なビタミンを持ちながら同時にビタミン破壊酵素も持っている。真逆の栄養素をどうして同じ体に持っているの?それにはきっと何か意味があるはず!そして私たちが食べているのはビタミンや破壊酵素など個々の栄養素ではなく人参です。あくまで調理師の立場からそんな「一物全体」がどんな効果があるのか、性質を持っているの?私を選んだ

食材で私が作った料理を食べてくれる人たちにその料理はどんな効果をもたらすの?それを知りたい!!そして、保育園の保護者の方々とお話をさせていただいているうちに、『食べ物で体質改善がしたい』と願う人たちが沢山いることを同時に知りました。気がつけば私は職場を辞め薬膳師を目指していました。

そして(初めての?)受験生生活突入。通信でしかも頭の悪い私にはなおさら教科書だけでは理解できず、資料を買いあさったり迷惑かえりみずしょっちゅう劉先生にメールで質問を送り、名占屋校にまでおしかけ、飛び入り参加させて頂いたりして勝本先生にも劉先生にも多大な迷惑をおかけしてしまいました。また同じ通信をされている沢山の情報交換と「一緒に受けようや!」と背中をばーんと押して下さった大分の古谷さん、お世話になった先生方、情報交換をさせて頂いた赤松さん、植山さん、田崎さん、原田さん、前田さん、高野さん、竹端さん、飛び入り参加にも関わらず優しく受け入れて下さった名古屋校の方々。対策講座や試験で東京に行った時にお世話になった皆様。本草薬膳学院で学べた事によりこんなに沢山の皆様と出会え、また、応援してくれた友人、知人、家族、...今回の試験で得たのは知識や免許だけでなく賛沢な程の沢山の出会いと支えて下さっている周りの方々への感謝の気持ちに気づかせて貰えたことです。皆様、本当にありがとうございます。

そしてこれからも、こんな私を見捨てずおつきあい願えれば...と思います。そして劉先生、ご迷惑かと存じますが...また質問メール...うってもいいですか?

